

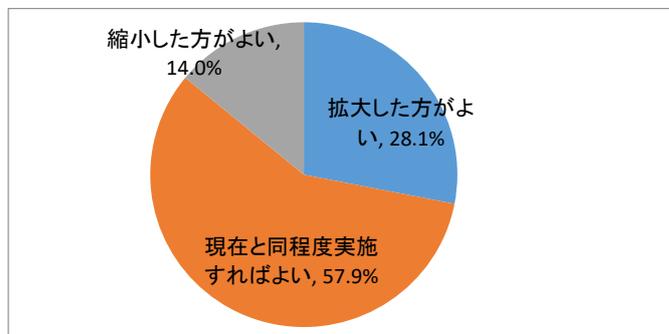
令和6年度 埼玉県総合評価方式【工事】に係る入札参加者アンケート

現在の総合評価の制度について

令和5年度埼玉県発注工事で設計額(税込み)1千万円以上の工事のうち約2割で総合評価方式を実施しています。

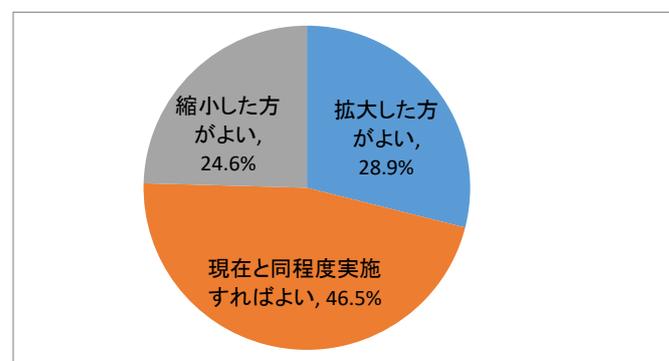
設問1 設計金額2億円以上の総合評価方式での工事発注方針についてどのように考えますか。

	回答	割合
拡大した方がよい	32	28.1%
現在と同程度実施すればよい	66	57.9%
縮小した方がよい	16	14.0%
合計	114	100.0%



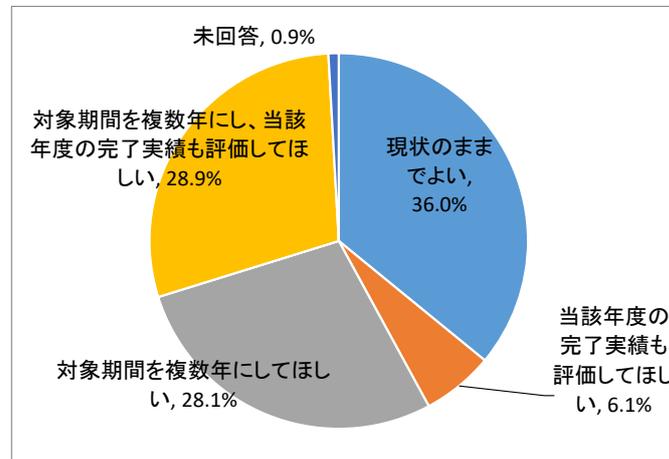
設問2 設計金額2億円未満の総合評価方式での工事発注方針についてどのように考えますか。

	回答	割合
拡大した方がよい	33	28.9%
現在と同程度実施すればよい	53	46.5%
縮小した方がよい	28	24.6%
合計	114	100.0%



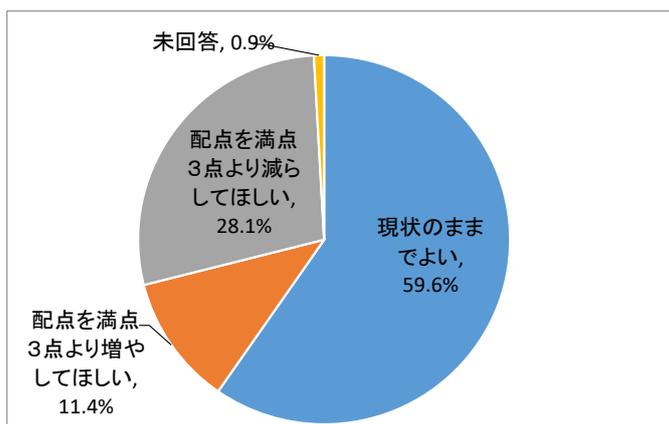
設問3 難工事完了実績の評価において、対象期間を過去1年度間としていることについて伺います。

	回答	割合
現状のままでよい	41	36.0%
当該年度の完了実績も評価してほしい	7	6.1%
対象期間を複数年にしてほしい	32	28.1%
対象期間を複数年にし、当該年度の完了実績も評価してほしい	33	28.9%
未回答	1	0.9%
合計	114	100.0%



設問4 難工事完了実績の評価において、件数に応じて3点まで加点していることについて伺います。

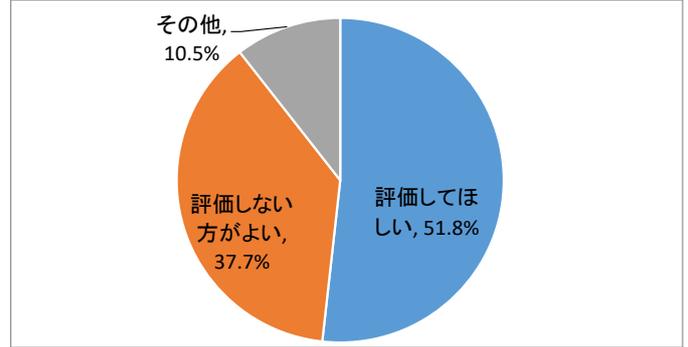
	回答	割合
現状のままでよい	68	59.6%
配点を満点3点より増やしてほしい	13	11.4%
配点を満点3点より減らしてほしい	32	28.1%
未回答	1	0.9%
合計	114	100.0%



総合評価の制度改定に向けた検討項目について

設問4 女性技術者の現場代理人又は技術者としての配置を評価することについて、伺います。

	回答	割合
評価してほしい	59	51.8%
評価しない方がよい	43	37.7%
その他	12	10.5%
合 計	114	100.0%



【その他(具体的な意見)】

※()内は類似の意見数

男女とも同等の評価が望ましい。技術者評価を男女で区別する必要がない。(5件)

女性技術者は(現状)絶対数が限られており、獲得事体が困難です。総合評価での評価は公平ではない。(5件)

該当する女性技術者がいないため、評価しない方がよいが、多様性の時代であるから制度改定を否定はしない。(2件)

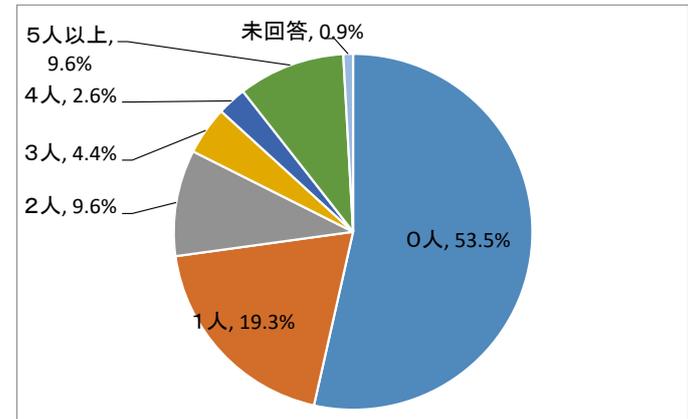
技術者をより多く採用できる大企業ほど有利になる為、一部企業による総合評価案件の独占を助長してしまう。

工事ごとに評価があるといいと思います。例えば、「若手育成型」のように「女性技術者育成型」のような制度があってもよい。

全体的に女性代理人が少ない状況と認識しており、増加に合わせてほしい。

設問6 (貴社に上記評価の対象となる女性技術者は何名いますか。)

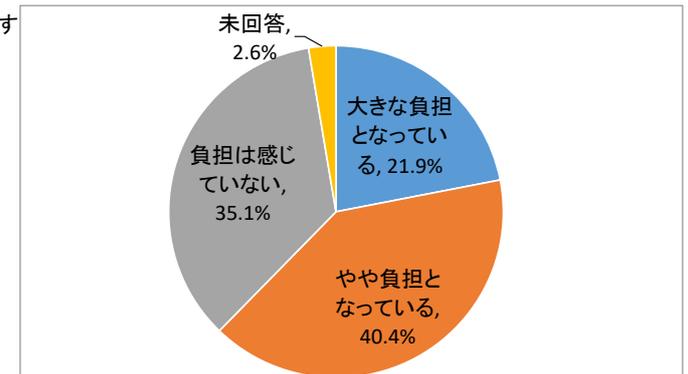
	回答	割合
0人	61	53.5%
1人	22	19.3%
2人	11	9.6%
3人	5	4.4%
4人	3	2.6%
5人以上	11	9.6%
未回答	1	0.9%
合 計	114	100.0%



手持ち工事量の評価は、手持ち工事量比率(当該年度受注額÷過去3年度間受注率の平均)によるものとしています。

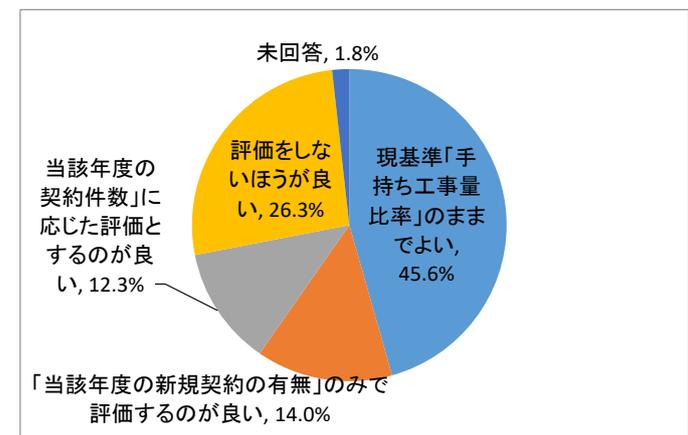
設問7 手持ち工事量比率の算出及び技術資料作成に伴う事務について、伺います

	回答	割合
大きな負担となっている	25	21.9%
やや負担となっている	46	40.4%
負担は感じていない	40	35.1%
未回答	3	2.6%
合 計	114	100.0%



設問8 手持ち工事量の評価基準について、伺います。

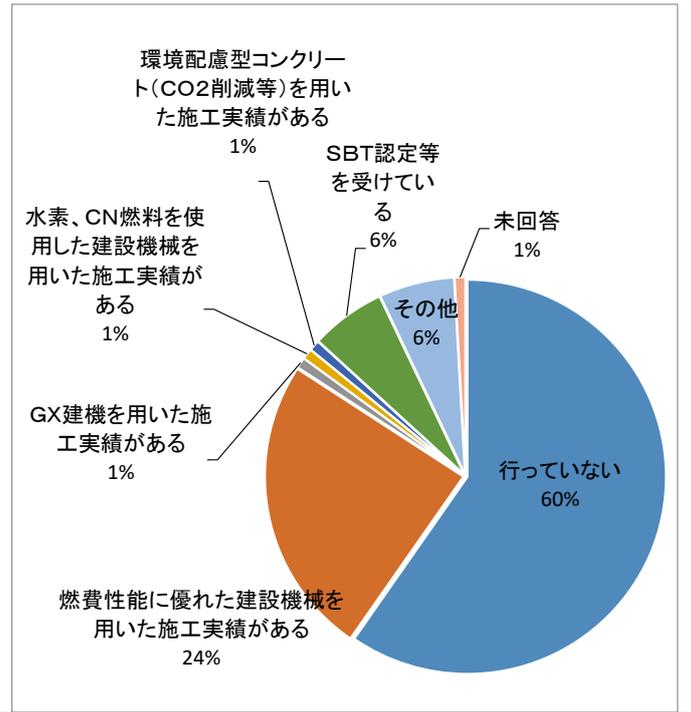
	回答	割合
現基準「手持ち工事量比率」のままでよい	52	45.6%
「当該年度の新規契約の有無」のみで評価するのが良い	16	14.0%
当該年度の新規契約の有無に合わせた評価とするのが良い	14	12.3%
評価をしないほうが良い	30	26.3%
未回答	2	1.8%
合 計	114	100.0%



政府は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロとする、カーボンニュートラルを目指すことを宣言しています。

設問9 カーボンニュートラルに向けた取組について伺います。

	回答	割合
行っていない	68	59.6%
燃費性能に優れた建設機械を用いた施工実績がある	28	24.6%
GX建機を用いた施工実績がある	1	0.9%
水素、CN燃料を使用した建設機械を用いた施工実績がある	1	0.9%
環境配慮型コンクリート(CO2削減等)を用いた施工実績がある	1	0.9%
SBT認定等を受けている	7	6.1%
その他	7	6.1%
未回答	1	0.9%
合計	114	100.0%



【その他(具体的な意見)】

※()内は類似の意見数

社用車を環境負荷の少ないハイブリッド車、又はプラグインハイブリッド車に切り替え。(2件)

ISO14001の認証を受け、更新を続けている。(2件)

発注時の実行予算では将来的なこと(総合評価の加点)を考えてまで取組もうとしていない。発注者指定の条件(公告)で要求した方が普及する。

活動や埼玉県SDGsパートナーとしての活動がある。

SBT認定を取得する為の準備中

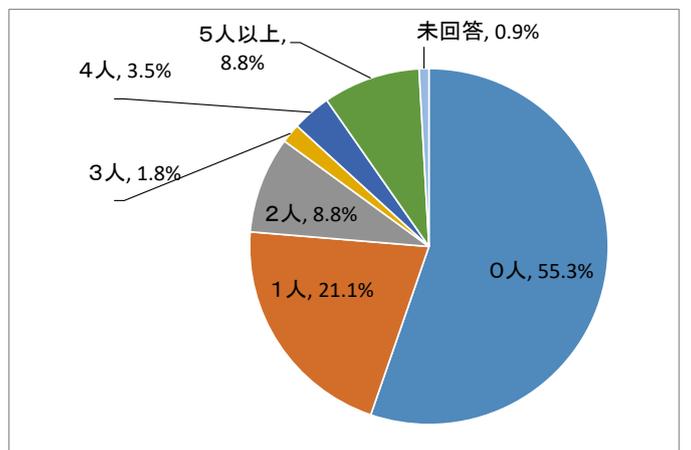
新社屋建築の屋上に太陽光発電システムを設置予定

太陽光パネルと蓄電池を組み合わせた仮設電気の提案

将来的な総合評価の制度改定を見据え、貴社の取組について伺います。

設問10 現場代理人や技術者に替わり書類業務を担う職員(例:建設ディレクター)の在籍状況について伺います。

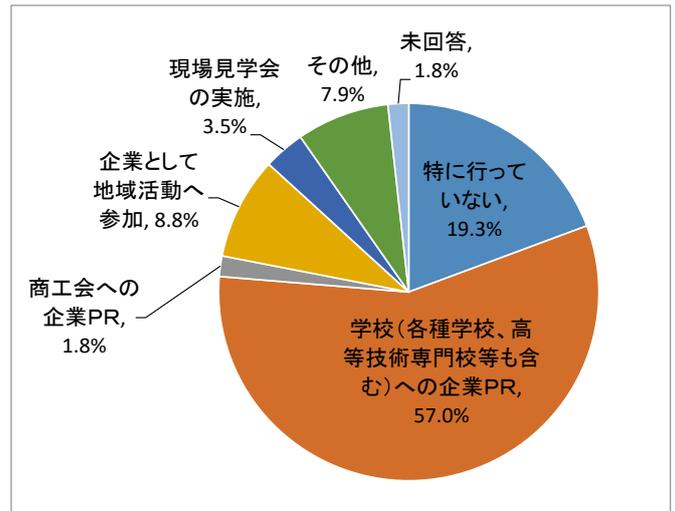
	回答	割合
0人	63	55.3%
1人	24	21.1%
2人	10	8.8%
3人	2	1.8%
4人	4	3.5%
5人以上	10	8.8%
未回答	1	0.9%
合計	114	100.0%



建設業の担い手確保は喫緊の課題となっています。

設問11 入職促進の取組について伺います。

	回答	割合
特に行っていない	22	19.3%
学校(各種学校、高等技術専門学校等も含む)への企業PR	65	57.0%
商工会への企業PR	2	1.8%
企業として地域活動へ参加	10	8.8%
現場見学会の実施	4	3.5%
その他	9	7.9%
未回答	2	1.8%
合計	114	100.0%



【その他(具体的な意見)】

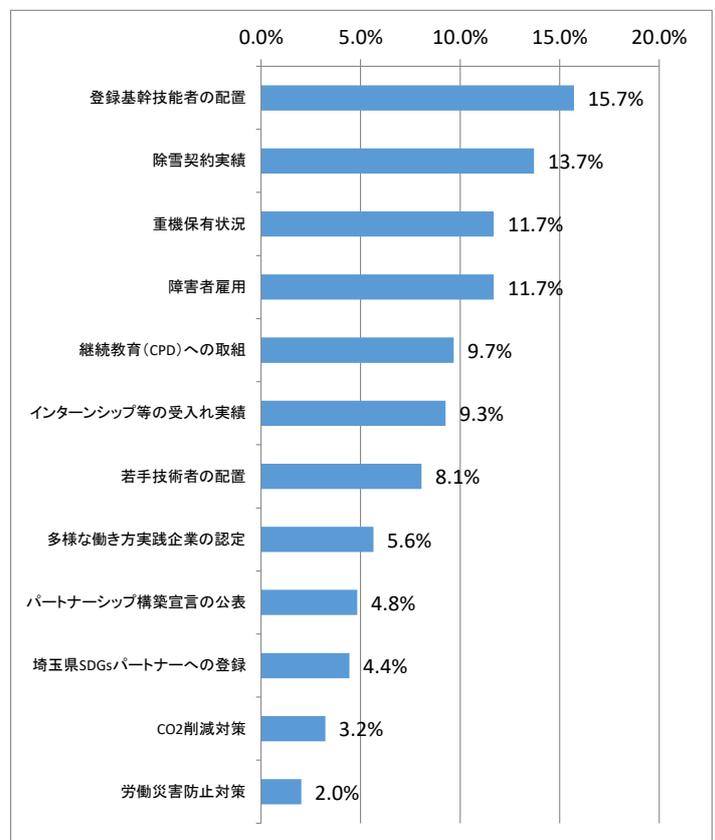
※()内は類似の意見数

- ハローワークでの求人募集(3件)
- 求人専用のホームページを公開(2件)
- 人材募集広告の掲載(2件)
- 採用情報サイトの利用
- インターンシップ受入れ

評価項目としないほうが良い項目

設問12 現在の選択項目で加点項目としないほうが良い評価項目はありますか。【3つまで選択可】

	回答	割合
登録基幹技能者の配置	39	15.7%
除雪契約実績	34	13.7%
重機保有状況	29	11.7%
障害者雇用	29	11.7%
継続教育(CPD)への取組	24	9.7%
インターンシップ等の受入れ実績	23	9.3%
若手技術者の配置	20	8.1%
多様な働き方実践企業の認定	14	5.6%
パートナーシップ構築宣言の公表	12	4.8%
埼玉県SDGs/パートナーへの登録	11	4.4%
CO2削減対策	8	3.2%
労働災害防止対策	5	2.0%
合計	248	100.0%



設問13 総合評価方式に関する御意見を自由に記述してください。

【総合評価方式の発注】

総合評価の発注は増やしてほしい。(6件)

県内に係る事項を評価項目としない総合評価案件を検討していただきたい。(5件)

地域の為に貢献している地元業者が受注しやすい評価方式を採用してほしい。(4件)

公共工事を多く受注する企業が有利に働く為、民間工事主体の企業の参入が難しい。(3件)

ダンピング防止の観点から、低入札価格調査の適用を廃止してもらいたい。(3件)

通常の一般競争入札(ダイレクト、事後審査型)で発注して頂きたい。(2件)

WTO案件の工事発注を増やしていただきたい。(2件)

技術評価点をより重視した発注をしてもらいたい。(2件)

工事成績評定の対象でない工種(標識・区画線)に総合評価を拡大してほしい。

市町村の総合評価拡大に向けた支援に努めてほしい。

舗装工事の総合評価は無くしてほしい。

ガイドライン改定については継続し早めの事前周知をしていただきたい。

【発注手続き】

添付する技術資料について、可能な限り県でデータ化するなど事務手続きの軽減に努めていただきたい。(3件)

落札業者決定までの時間を短縮してほしい(3件)

技術資料の訂正、差替えについて場合によっては再提出を認めていただきたい。(2件)

重複する項目が多いので入札参加資格審査の件評価点を、企業の評価として用いてほしい。

手持ち工事量比率は県の工事が中心の会社にとっては間違いやすく、書類作成に膨大な時間がかかる。

【評価項目】

表彰による加点の有無が落札に入札結果に過度に影響している。(2件)

CO₂削減対策のISO14001の評価については残していただきたい。(2件)

性別の違いによる評価項目である「女性技術者」に対する評価は適当ではない。(2件)

若手技術者の配置の評価は、受注の為に若手技術者の特性・技能を考慮せず無理やり配置してしまう弊害があるのではないか。

中小企業にとって障害者の雇用は大きな負担であり、また若手従業員の確保も難しい課題である。

技術評価点をより評価した発注をしてもらいたい。

新規採用数や平均年齢等の評価があってもよい。

新製品・新技術の活用は中小企業には難しい。

ISOについては、DXやICT施工時のセキュリティー担保になる27000Sなども評価に加えるのがよい。

災害活動は技術評価点3点以上の評価価値がある。また、地理的条件に災害活動と連動した加点評価を検討してもらいたい。

全体的に評価項目が多すぎる。

会社の規模や登録している業種によって点数に差が出てしまう項目については検討してほしい。

建設ディレクター等の現場サポート体制の構築は、単独企業では人件費などを考えると難しい。

難工事完了実績は「必ず設定する評価項目」としてほしい。